

あくていぶ



わがまちたかつき
切り絵紀行

「思い出の花しょうぶ園」(田能)

切り絵 作：生地 い ち た か よ し 高芳(高槻市在住)

特集

あたりまえって何？ ふつうはいろいろあるじゃない

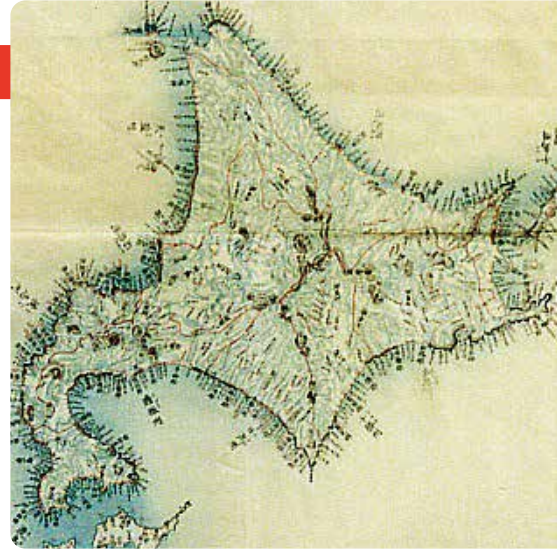
このまち、見つけた！

あちこち訪問

「道を歩き 道をつくる」

まつ うら たけ し ろう

松浦武四郎記念館



松浦武四郎記念館情報 <https://takeshiro.net>

高槻から車で出発、新名神高速に乗り、京都、滋賀を抜けて2時間半、のどかな田園風景に変わり三重県松阪市に入ると、探検家、地誌学者、作家等多くの顔をもつ松浦武四郎の記念館があります。

1818年、三重県松阪市に生まれた武四郎は、幕末から明治維新期にかけて、地球半周分に相当する約20,000kmの道のりを歩きました。旅先で様々な価値観を受け入れ、その広い心、偏見を持たない目、常に先を切り開く力は、やがて言葉と文化の壁を乗り越え、アイヌの人々と深く交流します。明治政府で開拓判官に任せられ、「蝦夷地」(今の北海道)に替わる新しい名前として、アイヌの人々を指す古い言葉「カイ(この国に生まれた者)」を用い「北にあるアイヌの人々が暮らす広い大地」という思いを込めた「北加伊道」などを提案し、「北海道の名付け親」と呼ばれています。今回は武四郎が描いた絵と和歌をあわせてご紹介します。



松浦武四郎さん

アイヌとの出会い

26歳の時、ロシア南下の脅威を知った武四郎は、蝦夷地へ向けて出発します。28歳から41歳まで計6回蝦夷地を訪れ、151冊の調査記録をまとめました。

アイヌ民族は、アイヌ語と独自の文化を持っています。初の蝦夷地調査報告書には、和人はアイヌの人々を見下しているが、彼らには敬うべきところがたくさんあると記しています。

“陸奥の 蝦夷の千島を開けて 神もや我を作り出しけむ”

大意：蝦夷地や千島列島を明らかにすると 神が私をこの世に送りだしたのだろう

アイヌの暮らし

当時、北海道は寒冷な気候のため稲作が難しく、松前藩の収入は水産資源に支えられていました。春にはニシン、夏は昆布、秋は鮭…当初藩は、アイヌの人々と対等に交易していましたが、やがて本州の商人たちに漁業経営を任せて「運上金」を上納させ、アイヌの人々への支配を強めていきました。若者は強制的に連れていかれ、村には年寄りと子どもだけが残り、自給自足をしていた暮らしは壊されていきました。和風化政策も進められ、暮らしや文化を無理やり本州と同じように改めさせられました。武四郎は、強制労働や非道行為に苦しむ人々の姿に心を痛め、幕府に今やるべきは、アイヌの命を守る事と訴えました。

“心せよ えみしもおなじ人にして この国民の数ならぬかは”

大意：心しておきなさい、本州の人々よ アイヌの人々も私たちと同じ人間であり、日本の国民であるというのに なぜその人々に ひどい事をするのだ



民族独自の楽器

アイヌへの思い



ご案内頂いた山本館長

武四郎は、13年をかけてアイヌの協力のもと、蝦夷地調査を成し遂げました。伊能忠敬や間宮林蔵が測量できなかった、蝦夷地の内陸部をくまなく歩き、山や川や湖などを地図に書き込みました。記された多くの地名（サッポロ、ワッカナイ、オタルなど）は、276名から聞き取った9,800ものアイヌ語であらわされたものです。後に、遠く離れた蝦夷地の独自の文化と、自然の中で巧みに生きる姿を紀行文や蝦夷漫画として出版し、アイヌ民族の生命と文化を守ることに力を注ぎました。



弾弓式の図（蝦夷漫画より）

“へだてなき 春の光に 北の海の 波のはつ花 今や咲くらむ”

大意：へだてることのない 春の暖かな光が北海道へ降り注ぎ 砕けた波が まるで今年最初に咲く花のように 咲いているでしょう、その暖かい光は アイヌの人々へも届きますように

訪問を終えて…

- 生涯にわたり沖縄以外の日本各地を歩き、その地で暮らす人々の生活、文化などを見つづけ、偏見をもたないありのままを受け入れる目と、価値観の違いを認めあう心は、現代を生きる私たちにこそ必要な多文化共生を問いかけている。
- 遠い北海道も今なら便利な交通機関があり観光はたやすく、情報もすぐ手に入れることができる。豊かでぜいたくであふれ返っている私たちの生活だけれど本当に幸せなのだろうか？ 自分の目をしっかり開き、情報をキャッチし、身近な自分の問題として、これからアイヌ文化を考えていきたいと思った。
- 地図さえあれば先人たちの努力や苦悩はさほど気にせず、日本全国どこにでも行くことができる。ああ、ナンテコッタ肩コッタ（この拙文をしたためているので）。私は何も知らなかった、今回ここに来るまで。そう、松浦武四郎と言う名前さえも…。この北海道も伊能忠敬が名付け、測量も全て彼の功績だと思っていた。特に北海道に至っては、アイヌの人々と交流を重ね、民族に敬意を持って接したことで、差別で苦しんだ人々から信頼され、その労力と汗のたまもの地図だったとは…。北海道の難解な地名の多くも、アイヌ語から引用とのことはすごく納得できた。
- 150cmにも満たない小柄な体で、探検家であり、学者、作家、てん刻家などの多才ぶりと計り知れないバイタリティに圧倒されながら「耳ダンボ」で館内を巡った。また、ナビゲーターがピカイチで、こんな石頭でもスポンジのように吸収できた。今回の訪問で武四郎と松阪市とアイヌとナビゲーターのファンになり、帰宅後YouTubeに「いいね」を一つプラスした。



蝦夷人鶴の舞図



神に祈りを捧げるアイヌの人々

高槻と武四郎とのゆかり

武四郎は71歳で人生の旅を終えるまで、道を歩き続けました。晩年は全国25の天満宮を巡り、石碑を建て、神鏡を奉納しました。高槻市にも、上宮天満宮に石碑と神鏡を奉納しています。神鏡は、しろあと歴史館が保管していますが、武四郎の名が刻まれた石碑は、今も上宮天満宮の境内に建っています。おまいりの際に、ぜひ石碑を探してみてください。



▲神鏡は高槻市立しろあと歴史館で大切に保管されている



このひと、見~つけた!

平和の尊さは 何物にもかえがたい幸せ

地域でミニ平和展を開催している第六中学校区地区単位会
運営委員長のなぎの なかゆき 雑野長行さん、冠中学校区地区単位会運営委員
長のみやもとめくみ 宮本 愛さんにお話を伺いました。



左から雑野委員長、宮本委員長



第12回ミニ平和展の様子

争いや、戦争がなく、差別せず、違いを認め合い、悪口を言ったり、
けんかをせず、みんなが笑顔になるまちづくりを目標にしてい
ます (第14回ミニ平和展より)

Q きっかけは？

戦後65年を機会に、何が平和なのか、何で平和を感じる事ができるの
かを考えてみたとき、当時の第六中学校区では、多くの地域住民が高槻
まつりのおどり連に集う「人の絆」が平和の証、冠中学校区では、カル
ガモの親子の行列を見た風景の「地域の環境」を守るのが平和の証と感
じました。高槻市では毎年8月に平和展が開催されていますが、もっと身
近な所で地域の皆様にも平和を感じていただきたいと、2010(平成
22)年に第1回校区ミニ平和展を二校区合同で開催しました。

Q 今後は？

今年で第15回を迎えましたが、回を重ねていくうちに、地域だけの平和でいいのか？という疑問も生まれま
した。戦争の記憶のある人が人口の10人に1人という時代になり、この記憶を伝えるために、第12回からは高槻
市城跡公園(現:高槻城公園)にある遺構を紹介しました。今後もこの平和を守るために、私たちが伝えないと
いけないことを紹介していきたいと思っています。「継続は力なり」小さな展示会、小さな力ですが、地域住民
の皆様のお力を借りて、コツコツと頑張っていきます。



コラム

違って当たり前

今回、あちこち訪問で訪れた三重県では「明日、あさって、ささって、しあさって」と言い、「あさって」と
「しあさって」の間に「ささって」が入ります。大阪では「しあさって」は3日後を意味しますが、三重県で
は「ささって」が3日後で「しあさって」は4日後になります。三重県の人と日にちの約束するときは、これ
を知らないと大変です。他にも、三重県の方では「あられ」はお茶をかけて食べる物だそうです。

松浦武四郎は蝦夷地へ入る前の17歳から26歳までの9年間、一度も家へ帰らず、仕送りも無く、日本
各地を旅し記録していました。それができたのは、旅の先々でその違いを理解し、相手を尊重することが
できていたからです。今で言う「ダイバーシティ(多様性)」「インクルージョン(包括)」を160年前に自
然と実践していたと言えます。

人権啓発指導員 藤澤 善富

地域が元気でいきいきと

高槻市人権まちづくり協会では、中学校区ごとに地区単位会を設置し、市民が中心となり心豊かなまちづくりに取り組んでいます。

単位会名	令和7年度の主な活動	内容
第一中学校区地区単位会	ふれあいアップ講座「包括支援センターと高齢者の人権について」	虐待など人権の視点で、現場の職員からお話し頂きました。
第二中学校区地区単位会	ふれあいアップ講座「子ども食堂の今と私たちができること」	現代社会の貧困と子どもの食を「子ども食堂」をキーワードに、市民としてのアクションを考えました。
第三中学校区地区単位会	ふれあいアップ講座「二胡とピアノの調べ」	中国の龍の舞に合わせた楽器の演奏会に会場は大盛り上がり！
第四中学校区地区単位会	早春ふれ愛トーク「崇仁地域フィールドワーク」	建て替えが進む京都駅のすぐ近く、崇仁地域に残る過去の風景や生活を肌で感じました。
第六中学校区地区単位会	人権ふれあいアップ映画会「破戒」*冠中と共催	島崎藤村の不朽の名作を上映。
第七中学校区地区単位会	ふれあいアップ講座「みんなが笑顔で明るい未来へ」	インドのスラム街へボランティアに行かれて気付いた、人権とは？の学びのお話。
第八中学校区地区単位会	ふれあいアップ講座「円満まんまる魔法の言葉かけ」	ペップトークを学び、自分へ、家族へ、友だちへ贈る言葉かけを学びました。
第九中学校区地区単位会	ふれあいアップ講座「認知症と共にごどう生きる」	自分も、家族も周りの人も、認知症と向き合った生き方を考えました。
第十中学校区地区単位会	第22回たそがれコンサート	第十中の吹奏楽部の演奏をはじめとしたイベントで、地域住民同士の交流会に参画しました。
城南中学校区地区単位会	人権ふれあいアップ映画会「千の風になって」	息子を失った母親、母親を死なせてしまった娘。それぞれの物語を通して“生と死”の意味を考えました。
川西中学校区地区単位会	ふれあいアップ講座「グリーンフェア～家族・遺族の悲嘆に寄りそう～」	誰しも心清らかに生ききる方法と、死別の哀しみをのりこえることを学びました。
如是中学校区地区単位会	人権ふれあいアップ映画会「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」	誰もが知っている絵本作家の、あまり知られていない平和に思いを寄せた生涯を上映。
冠中学校区地区単位会	ふれあいアップ講座「得意を活かす生き方」*第六中と共催	難病で失意のどん底から克服してこられた講師の姿に、生きる元気を頂きました。
芝谷中学校区地区単位会	人権ふれあいアップ映画会「風たちの学校」	学校に通うことがしんどい子どもたちの、葛藤し成長していく姿の実践を学びました。
阿武野・阿武山中学校区地区単位会	心ほのほのふれあいアップ講座「優しさは笑顔から～人生は喜怒哀楽～」	落語第九代社会人チャンピオン喜怒哀楽さんを招き、笑うことの大切さを学びました。



▲主催：第三中学校区地区単位会
共催：第四中・如是中学校区地区単位会
珍しい二胡の演奏に、会場は超満員。参加者も登壇して合奏を楽しみ、場内は大盛り上がり



▲阿武野・阿武山中学校区地区単位会
「優しさは笑顔から」先行き不透明な社会を笑顔で乗り切ろう！目の前で見る本格的な落語は迫力満点

人権課題を一人ひとりが自分の事として捉え、お互いの人権を尊重し合う高槻市を築くことを目的に人権啓発作品を募集したところ、作文607点、標語3,694点、絵画98点、合計4,399点もの応募がありました。選定の結果、下記の皆さまが入選されました。



各部門の最優秀賞受賞者によって、高槻市人権擁護都市宣言文が読み上げられました



市立生涯学習センター入選作品展示会場にて
(令和7年12月12日～13日)

✿ 絵画の部

	学校名・学年	名 前
最優秀賞	高槻小学校4年生	柴田 志乃
優秀賞	高槻小学校6年生	岸本 由里子
優秀賞	檜田小学校2年生	濱崎 結翔
優秀賞	桜台小学校3年生	垣内 純花
優秀賞	冠小学校6年生	山田 恵子
佳作	桜台認定こども園3歳	垣内 涼花
佳作	桜台認定こども園5歳	垣内 彩花
佳作	高槻小学校5年生	内田 光
佳作	川西小学校4年生	浜田 茉陽
佳作	玉川小学校6年生	林田 瑠菜
佳作	玉川小学校6年生	山崎 咲音
佳作	冠小学校6年生	小川 杏
佳作	冠小学校6年生	児嶋 世那
佳作	冠小学校6年生	長濱 晴大
佳作	奥坂小学校3年生	山本 彩月

✿ 作文の部

	学校名・学年	名 前	タイトル
最優秀賞	檜田小学校5年生	和田 苺杏	髪の毛が短いから男の子ではない
優秀賞	檜田小学校6年生	辻本 鉄	アカ族のゆたかな村で
優秀賞	桜台小学校3年生	垣内 純花	命の大切さ
優秀賞	柳川中学校1年生	アキノ アラン ポール	いじめとSNS
優秀賞	川西中学校2年生	黒河 多緒	いじめをなくそう
佳作	檜田小学校5年生	(匿名)	何気ない平和
佳作	第一中学校1年生	金井 青空	今
佳作	第八中学校3年生	平田 由衣	平和のために私達ができること
佳作	柳川中学校1年生	小林 大悟	助け合える社会
佳作	柳川中学校1年生	谷上 穂乃香	性的マイノリティについて
佳作	阿武野中学校1年生	中田 莉央	自分の声に耳を傾けて
佳作	阿武野中学校2年生	中島 聖護	言葉
佳作	五領中学校1年生	日浦 優佐	平和
佳作	川西中学校2年生	吉村 優花	性別に捉われない生き方
佳作	芝谷中学校3年生	谷口 紗花	障がいは社会が作る壁

✿ 標語の部

タイトル
安心できる暮らしへ
本当は気づいているんでしょ？
しあわせをはこぶドクターイエロー
みんな大切
平和を守りたい
みんなともだち
みんなともだち
みんなにしてほしいマーク
平和な世界
平和主義
平和の世界
幸せのふうせん
平和な世界
世界を照らすひまわり
地球と平和

	学校名・学年	名前	タイトル
最優秀賞	郡家小学校3年生	原 志歩	ふつうはいろいろ
優秀賞	津之江小学校5年生	樽見 稀咲	平和について…
優秀賞	阿武山小学校3年生	村上 輝奈	勇気
優秀賞	第四中学校1年生	辻本 明日香	助け合いの始まり
優秀賞	第六中学校2年生	佐藤 美侑	人権 標語
佳作	清水小学校1年生	梶村 明叶	居心地のよい学校のために
佳作	津之江小学校4年生	西村 咲人	人それぞれ
佳作	松原小学校6年生	中西 杏	俳句で標語
佳作	松原小学校6年生	中西 太一	俳句で標語
佳作	阿武山小学校6年生	平林 航	平和
佳作	第四中学校1年生	中澤 優菜	存在
佳作	第四中学校2年生	松本 悠乃	笑顔は力
佳作	第六中学校2年生	浦川 ひなの	人権 標語
佳作	第六中学校2年生	佐藤 慶弥	人権 標語
佳作	城南中学校1年生	吉田 渚	頭の引き出し

記念講演会を開催

人生100年時代は遅咲きでも大丈夫



講師の若宮さん

300名で埋め尽くされた会場に、颯爽と登場された若宮正子さんは御年90歳。とてもハツラツしたお姿で「年齢や性別は国勢調査の時に必要なだけ。何歳以上はお酒を買う時には必要ですが、年齢は単なる数字です。歳をとるとできなくなるのは思い込みすぎません。歳を重ねるごとに様々な喪失体験をします。毛がぬけた、歯がぬけた、家族や友人を失った…でも、減ってしまったものがあっても、新しいもので補っていけばいいのです。

そのためには、自分で自分を困い込まず、無難・常識・年齢から抜け出せばいいわけです。

この変化に富んだ不確実な時代をどう生きていくか、それには短絡的に正解を求めたり、100点主義にこだわらないことです。ベストでなくても、とりあえずベターで様子を見ましょう」とお話しいただきました。

参加者からは「若宮正子さんのことは、ひな壇アプリで知り、当時よりとても関心がありました。90歳になられ、ますます人生を前向きに、人間力を身につけられるよう取り組まれている姿に、自分もまだまだこれから、と元気をもらいました。生涯学習を続けたいと思います」「いつまでも学び続けることの大切さを教えていただきました。古い知識は忘れて、どんどん新しい知識を学ぶこと。本当に大切だと思います」との感想が寄せられました。

みんなに
笑顔を!

人権講演会 “心の豊かさを求めて”を開催します

絵本作家 長谷川義史さんと絵本ライブ

素敵なお絵本の世界を！ 読み聞かせ、歌など小さなお子様から大人まで、みんなが楽しめる奥が深い絵本ライブ♪

日時 令和8年6月13日(土)
14時～(開場:13時30分)

会場 市立生涯学習センター 2階 多目的ホール

定員 要事前申込順300名

申込期間 5月7日(木)～定員に達するまで

申込方法 ①来所 ②☎647-7825
(①②は平日8:45～17:15)
③FAX647-7233 ④HP
(③④は毎日24時間受付)



ユーモラスでおおらかな絵は大人から子どもまで大人気



講師の長谷川義史さん

1961年大阪府藤井寺市生まれ。「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」で絵本デビュー
主な作品に「いいからいいから」「へいわってすてきだね」「おならまんざい」など多数

参加料
無料

手話・
要約筆記
あり

保育あり
未就学児5名まで
要事前申込

人権啓発作品を募集します

■**テーマ** 人権にかかわるものであれば自由

- 【例】 ●お互いの人権を守る
●インターネット上の人権侵害
●性の多様性/SOGIE ●平和の尊さ など

■**作文の部** 400字詰め原稿用紙4枚以内

■**絵画の部** 手書きは4つ切り以下、パソコンはA2以下

■**標語の部** 形式・長さは自由 *お一人様各部門一点まで

■**募集期間** 令和8年6月4日(木)～9月11日(金) 必着

■**応募方法** 応募票を作品の裏面に貼り付け、応募先へ郵送又は下記事務所へお持ちください(応募票はホームページからダウンロード、もしくは事務所まで)

■**応募・問合せ先**

一般社団法人高槻市人権まちづくり協会

☎072-647-7825

〒569-0071 高槻市城北町1丁目14-6 荒木ビル3階

※詳しくはホームページをご覧ください

編集後記

近くの公民館で開催された人権草の根活動の講座「子ども食堂」に参加してみました。皆さん、「子ども食堂」という言葉を最近よく耳にされると思いますが、どういった感想をお持ちですか? 「子ども食堂」とはなにも、経済的な理由などで十分な食事がとれない子どもに栄養のある食事を提供する場だけでなく、一人で食事をする「孤食」を減らし、滋味豊かな食材を通じて、食に関する知識や習慣を育み、みんなで食べる楽しさを提供するところでもあります。

一方、運営費の確保、ボランティアなどのスタッフの不足や後継者の確保などいくつかの課題も抱えているのも事実です。

しかしながら、今では子どもから高齢者までが集う地域の居場所となって機能しています。こども同士、大人同士、そして多世代が交流できるコミュニティの場を提供できる「子ども食堂」の活性が、地域づくりのきっかけになればいいのにと感じました。



編集発行/一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会 (☎647-7825)

「あくていぶ」は協会ホームページからもご覧になれます

<https://www.takatsuki-jinmati.org/> **高槻市人権まちづくり協会** 検索

Follow
Me!!



Instagram

takatsuki.jinmati

